

第2回 吹田市第4次総合計画中間見直し等支援業務  
プロポーザル選定委員会 開催結果概要

- 1 日時  
令和4年6月6日（月）午後2時00分～午後4時30分
- 2 場所  
メイシアター（吹田市文化会館）3階 第1会議室
- 3 出席者  
【委員】行政経営部長（委員長）、都市魅力部長、健康医療部長、環境部長、  
都市計画部長、学校教育部長  
【事務局】企画財政室職員
- 4 内容  
第2次審査（プレゼンテーション及びヒアリング）
- 5 議事概要
  - （1）事務局が出席者数の確認（委員6名中6名出席）を行い、吹田市第4次総合計画中間見直し等支援業務プロポーザル選定委員会設置要領第5条第2項に定める定足数を満たし、本会議が成立していることを確認した。
  - （2）事務局から審査の流れを委員に説明後、事業者2者からの提案を受けた。それぞれの質疑応答は別紙のとおり。
  - （3）事務局において各委員の採点表を集計し、結果公表を行った。
  - （4）審査結果に基づき、参加者番号2140を契約候補者とし、参加者番号2138を次点者とすることを確認した。

第2回 吹田市第4次総合計画中間見直し等支援業務プロポーザル選定委員会  
第2次審査（事業者プレゼンテーション及びヒアリング）の質疑応答に係る議事概要

(1) 参加者番号 2138 のプレゼンテーションに係る質疑応答の概要

【委員】

吹田市の強みや弱みなど、本市の特徴をどう捉えているか。

【事業者】

人口が伸びており、活力のあるまちである。住宅開発によりまだ人口は伸びていくが、その先の人口減少・少子化にどういった政策を打っていくかが課題とも言える。北部や南部の地域特性の違い、そして転勤族や若い世代の転出入といった江坂周辺の流動性の高さなど、多様性のあるまちである。開業率の高さからビジネスチャンスを生かせるまちでもある。

【委員】

人口の流動性と市民意識の醸成が相反関係にあるが、どういう取組が考えられるか。

【事業者】

地域自治を横並びでスタートすると失敗する例もある。テーマごとに糸口をつかむなど、地区によって進め方を変えることが重要である。

【委員】

第4次総合計画の検証プロセスについて、各部ヒアリングとあるが、しっかりと議論した上で各部の思いを吸い上げることが重要である。どのように取り組むのか。

【事業者】

検証シートを集約すると、各部が記入する内容のレベルの差が出てくる。それらを我々が整理して、各部ヒアリングの中で更なる整理を図っていく。総合計画では横断的な見方が必要であり、我々からも提案をしていきながら各部の合意形成を図っていく。

【委員】

総合計画を市民目線で見たと時に、どうすれば分かりやすい計画にできるか。

【事業者】

中間見直しなので、現計画を一から見直すのではなく、現在の施策体系を生かしながら、概要版については読本の形で提案をしている。読本形式は弊社として他市でも作成事例があるが、市民に見てもらいやすく、PRにも使いやすい。リーフレットの作成も有効である。

【委員】

課題整理について、10年先に取り組むべきことは行政評価からは拾いにくい。昨今はコロナやウクライナの影響等もある。地域別計画の策定との御発言もあったが、広域化も重要な視点である。こうした視点をどう落とし込んでいくか。

## 【別紙】

### 【事業者】

提案している検証ステップの中で、社会潮流の変化への対応も想定している。社会潮流の資料を参照してもらいながら、先を見据えた新たな課題を導き出していく。

### 【委員】

ハード面等の目に見える吹田市の特徴以外に、福祉・医療等の観点で捉えている点は。

### 【事業者】

中核市になり保健所を持った。今回のパンデミックで市が率先的に手を打てることが明らかになり、市民の安心にもつながっているかと思う。今後、地区によっては少子高齢化が進み、手厚い福祉サービスの投入が重要である。また、人口増加地区では保育所等の問題に対して重点的な取組を進める必要がある。

### 【委員】

タイトなスケジュールになるが、こうした業務を行う上でのリスク管理等、他市での事例を踏まえ教えてほしい。

### 【事業者】

各部での検証シートの作成、ヒアリングに一番時間がかかる。素案の作成に取り掛かっただけからは比較的スムーズに進むことが多い。基礎調査、社会的潮流、現状分析はデスクワークで余裕をもって進めていく。後半の会議のスケジュールをスムーズに進めるため、各部ヒアリングを市と十分に調整しながら進めていきたい。

### 【委員】

総合計画と総合戦略の進行管理の一体化について、総合戦略を総合計画の体系に位置付けていくのか、並存させるのか、どちらの視点での提案か。

### 【事業者】

仕様書から、並存させると判断している。これまで、一体化も並存もどちらの支援についても実績がある。最終的にどうまとめていくかは市と協議していきたい。

### 【委員】

SWOT分析をして重点プロジェクトを設定とあるが、具体的なイメージは。

### 【事業者】

基本目標が分野横断的である。結婚・出産等、総合計画には出てこない目標が総合戦略では掲げられている。序章で2つの計画を整理したい。

### 【委員】

SDGsとの関係性の示し方について、総合計画内に落とし込む場合や別冊にまとめる場合等があると思うが、それら手法のメリット・デメリットはあるか。

### 【事業者】

別冊は計画の紙面を阻害しないのがメリットである。また、SDGsは総合計画として当たり前に含まれていると考え、別冊にまとめるといった考え方もある。

**(2) 参加者番号 2140 のプレゼンテーションに係る質疑応答の概要**

※契約候補者に選定した三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 大阪が参加者番号 2140 です。

**【委員】**

吹田市で今後最もクローズアップされる課題は何か。

**【事業者】**

今後 5 年間で考えると、大きいのは地域間の人口偏在。喫緊は学校の問題であり、他にも公共施設の再配置の問題もある。人口偏在のバランスをどう取っていくかが課題である。

**【委員】**

提案の中で、市民アンケートに対してギフトカード等の謝礼を準備するとあったが、その効果は。

**【事業者】**

500 円では効果は少ない。1,000 円だと効果があり、それ以上の金額だと怪しまれる。他市実績においては抽選でプレゼントする形にした。

**【委員】**

中間見直しのため、大きく変更しない方がよいという御発言があったが、提案書で示されている吹田市の現状・課題を中間見直しにどのように反映していくのか。

**【事業者】**

施策体系の骨組みは触らない方がよい。その方が一貫性もある。ただし、施策分野における新しい課題はしっかりと書き込んでいく。

**【委員】**

業務実施体制について、担当メンバーの現在の手持ちの業務件数に本市が加わったとして、長い期間の業務の中でこなしていけるのか。

**【事業者】**

業務ごとに関わり方の濃淡はある。今後業務が増えることもあれば完了するものもある。5 人の担当が同じ濃度で関わるわけではないが、これまで複数業務をこなしてきたメンバー構成となっている。

**【委員】**

指標設定の考え方について、めざすまちの姿とのつながりが重要とあるが、こういった方法で洗い出しをするのか。中核市である吹田市オリジナルの指標は見つけた方がよいのか、こだわらなくてもよいのか。

**【事業者】**

指標について、現場がどう考えているか、現場が使える指標かどうかが重要である。現場の声を聞いた上で、必要に応じて提案していきたい。

## 【別紙】

オリジナリティについては、指標の独自性はあまりこだわらなくてよいと思う。他市比較したいなら同じ指標、独自に頑張りたい施策ならオリジナル指標、というように決めればよい。

### 【委員】

総合戦略の部会を総合計画審議会の下に設ける提案があったが、部会での会議結果を審議会にその都度上げていくイメージか、別々で走らせて最終的に合わせていくイメージなのか。審議会等の会議体はタイトなスケジュールのため、総合戦略も絡ませると大変になるのではないか。

### 【事業者】

業務項目の整理と見積りの関係で2本走らせているが、総合戦略に係る推進委員会については、総合計画の策定委員会と同じタイミングで開催し、一体的にやっていく運用がよい。庁内会議は構成員も相当重複していると思われるため、効率的に進めるべき。同じ会議体の中で両委員会を兼ねつつ議題を分けてやるのか、同日開催という形で一体的に進めていくのかは要検討である。

### 【委員】

市民アンケートについて、謝礼がなくとも回答率が向上する工夫はないか。

### 【事業者】

提案しているオンラインのアンケートでは、画面を分かりやすく設定する、あとどれくらいで回答が終了するか見える化、意見がまちづくりに生かされるというナッジ的な要素が重要。抵抗感から謝礼はやらないという判断もあるかと思うので、その場合は色々な工夫を行う。

### 【委員】

工程が順調に進まない場合の対応は何かあるか。

### 【事業者】

最終期限から逆算して進めることが重要。照会をかけて遅れが出ることはあるだろう。庁内の遅れのフォローは市に任せながら、事業者としてはできるところから進めていく。外してはいけないタイミングをしっかりと共有しながら、必要に応じて審議会に上げていく順番を変更するなど、上手にコミュニケーションを取りながら進めていく。

### 【委員】

市民アンケートのデジタル化ということで提案では20～50歳が対象となっているが、50歳以上の層にWeb以外でアンケートをする予定はあるか。

### 【事業者】

予定はない。郵送アンケートの場合、半数以上は60歳以上の高齢者からの回答である。市の他のアンケートでカバーすべきところかと思う。高齢者のデジタル化については年代でグラデーションがある。果たして80代以上の世代にデジタル化を強かに推し進める必要があるのか、といった考えもある。80代以上には、デジタルといったワードは出さ

## 【別紙】

ずに、「電車に乗る時にどうしていますか？」というような日常生活への問いかけをしてみてはどうか。気が付けばデジタルの恩恵を受けている、といったアプローチが重要である。

### 【委員】

市民シンポジウム等の市民参画について、30代から50代のリアクションがあまりないのが本市としては課題である。そういった層に目を向けてもらうための工夫はあるか。

### 【事業者】

今回はシンポジウムの開催が仕様書にあったので提案しているが、正直、日にちや場所を縛ってしまうやり方では難しい。ショッピングセンターにボードを立てて、ベビーカーを押した子育て世代などにシールを貼ってもらうなど、意思表示をしてもらったことがある。30代から50代に対しては、少し足を止めてもらって、3分間だけ話を聞く、というようなアプローチが取りやすい。

### 【委員】

SDGsの推進について、どう中間見直しに盛り込むかが課題である。SDGsと総合計画の関係性が効果的に見えるアイデアをいただきたい。

### 【事業者】

2つのステップが考えられる。1つ目のステップとしては、市の取組体系ごとにどのゴールが当てはまるかという視点。SDGsの17のゴールのために吹田市が何をやっているかを整理する。2つ目のステップとしては、169の細かいターゲットまでおろして、具体的に近いところで整理すると、より確実にゴールに向かっている感が伝わる。

### 【委員】

吹田市の指標や特徴について、中核市レベルの中で水準が高いのか、弱いのか、他市との比較も踏まえて指標を設定していきたいと考える。本市の立ち位置を意識する中で、本市の弱みはあるか。

### 【事業者】

弱みは難しいが、あえて言うなら中心地がわからず、中心市街地の魅力が弱い。「吹田駅」といった市の名前が掲げられた駅の駅前が他市に比べると弱い。ただ、市内に駅が多くあるなど強みもあるため、克服が必要な課題かと言われると難しい。